

## 周産期ケアと両親教育に関する研究

— 夫立合い分娩を希望する夫婦のための出産準備教育 (2) —

研究第1部 千賀悠子・堀口貞夫  
研究第4部 水野清子  
研究第5部 望月武子  
嘱託研究員 曾根秀子・佐藤禮子  
(保健指導部)  
辻 順子(愛育病院看護科)

### I はじめに

#### 1. 第2年度の課題

- (1) 援助過程と指導方法の検討
- (2) 運営、管理の方法の検討
- (3) 小集団指導者としての指導性と資質向上のためのスーパービジョンやトレーニングプログラムの開発研究

第2年度も第1年度の実施方法に基づき出産準備クラスを(愛育病院看護科)実施した。

第2年度は、受講者からのフィードバックおよび意見・感想などから、受講者個人およびクラスのアセスメントを十分に行なうことを目標とし、受講者からのフィードバックなどを中心にして援助過程・指導法などの検討を行ったので報告する。資料は表1の資料と、記録者として参加した共同研究者の千賀の記録などによる。本文ではアンケートや評価表の結果と、その結果などから示唆される援助及び指導について考察する。

### II 結果と考察

#### 1. 援助過程と指導方法の検討

援助過程・指導法などの検討をするために、表1のようなアセスメントと評価の方法を採用した。

(1) 受講前のアセスメント—受講前のアンケートの結果などより

##### ① 対象把握

愛育病院で開催する「夫立合い分娩を希望する夫婦のための出産準備クラス」(以下—クラス)を受講した314組の夫婦(1986年12月より1988年3月までに開催した

28クラスに参加した夫婦)。

##### ② 年齢・経産回数・結婚年数(表2-1、-2、表3)

妊婦の年齢を階層別にみると、初産では25歳～29歳(59.6%)、30～34歳(30.1%)であるが、当院では初産年齢が高い妊婦の割合が多い傾向があり、当院内の比較では立合を希望する妊婦の年齢が高い傾向があるとはいえない。

妻が初産の夫の年齢は、30歳以上が62.2%。妻が経産の場合の夫の年齢は、30歳以上が80%である。

全体では、30歳以上の妊婦が40.1%、30歳以上の夫が65.2%である。

このクラスの特徴としては、社会生活の経験も豊かになっていると考えられる年齢階層の成人を出産教育の対象にしているということである。このことは企画・運営・講義にあたっては十分に念頭におかなければならない対象であることを示唆している。

初産は82.5%、経産は17.5%である。クラスによっては経産の夫婦が参加していない場合もある。

クラスに出産経験のある夫婦が参加していると、初産の夫婦にとっては経験談を聞くことができ、出産のイメージを描きやすいことなどの利点がある。しかし、前回の出産が異常な経過をたどった場合や、不快・不安を経験をしており、十分に気持の整理のついていない夫婦の場合の発言などが、初めて出産を迎える夫婦に不必要な不安を与えることが考えられる。だが、クラスを担当するスタッフが、このような経験をした夫婦に、前回の出産の体験に十分に共感し、これからの出産は又新しい経験であること、そしていいお産ができるように援助的な関わりあいをするならば、経産や初産の夫婦両者にとってそれは実り多いものになる。クラスに出産経験のある夫婦が出席することは望ましい。

表-1 クラスの目標、アセスメントと評価の方法

a) 夫立ち合い分娩のための出産準備  
 クラスの目標

b) アセスメントと評価の方法

第1日の目標	ファイル名	記入者	実施時間	内 容
1) 分娩経過と産婦の心理を知ることでの分娩のイメージを持てるようにする	ファイル 1-2-m	参加者	妊娠中(第1回受講まえ)	*情報収集-アンケート *外来カルテから妊娠中の情報 *上記に情報を適宜追加
2) 自分達がお産にどのようにのぞみ、かつ体験したかを2人で考えて行けるようにする	ファイル 2-1-i	インストラクター	妊娠中(第1回受講まえ)	
	ファイル 2-2-i	インストラクター	妊娠中(第2回受講まえ)	
第2日の目標	ファイル 3-1-m-H-W	参加者	第1回目クラスを受講して	*評価 *評価 *出産プラン *個人評価(1→M) *個人評価(1→M) *情報収集・意識調査-アンケート *立合い分娩の経験・その他
1) 分娩のイメージを深めるために、2人での方法を考えて演習できるようにする	ファイル 3-2-m-H-W	参加者	第2回目クラスを受講して	
2) 自分達が落ち着いてお産に臨む心構えを持てるようにする	ファイル 3-3-m	参加者	第2回目クラスを受講して	
3) 子どもを迎えての新しい家族のスタートにあたり、夫婦の役割や育児について考えていけるようにする	ファイル m-1-i-m	インストラクター	第1回目クラス受講中の参加者	
	ファイル 4-2-i-m	インストラクター	第2回目クラス受講中の参加者	
	ファイル 5-1-m-H-W	参加者	分娩後	

表2-1 妻の年齢階層別×立合い希望別×初経産別

	初 産					経 産				
	計 ( )内%	立 合 い 希 望				計 ( )内%	立 合 い 希 望			
		妻	夫	夫婦	不明		妻	夫	夫婦	不明
計	259 (100.0)	126 ( 48.6)	17 ( 6.6)	17 ( 34.4)	27 ( 10.4)	55 (100.0)	31 ( 56.4)	5 ( 9.1)	15 ( 27.3)	4 ( 7.3)
	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
20 歳 ~	13 ( 5.0)	4 ( 3.2)	2 ( 11.8)	6 ( 6.7)	1	0	0	0	0	0
25 歳 ~	155 ( 59.8)	80 ( 63.5)	9 ( 52.9)	49 ( 55.1)	17	20 ( 36.4)	14 ( 45.2)	2 ( 40.0)	4 ( 26.7)	0
30 歳 ~	78 ( 30.1)	34 ( 27.0)	4 ( 23.5)	33 ( 37.1)	7	29 ( 52.7)	15 ( 48.4)	3 ( 60.0)	7 ( 46.7)	4
35 歳 ~	12 ( 4.6)	7 ( 5.6)	2 ( 11.8)	1 ( 1.1)	2	6 ( 10.9)	2 ( 6.5)	0	4 ( 26.7)	0
40 歳 ~	1 ( 0.4)	1 ( 0.8)	0	0	0	0	0	0	0	0

表2-2 夫の年齢階層別×立合い希望別×初経産別

計	初産					経産				
	計 ( )内%	立 合 い 希 望				計 ( )内%	立 合 い 希 望			
		妻	夫	夫婦	不明		妻	夫	夫婦	不明
計	259 (100.0)	126 (100.0)	17 (100.0)	89 (100.0)	27	55 (100.0)	31 (100.0)	5 (100.0)	15 (100.0)	4
20歳～	2 ( 0.8)	1 ( 0.8)	***1 ( 5.9)	0	0	1 ( 1.8)	0	1 ( 20.0)	0	0
25歳～	96 ( 37.1)	41 ( 32.5)	11 ( 64.7)	33 ( 37.1)	11	10 ( 18.2)	4 ( 12.9)	0	3 ( 20.0)	3
30歳～	105 ( 40.5)	55 ( 43.7)	1 ( 5.9)	39 ( 43.8)	10	24 ( 43.6)	14 ( 45.2)	3 ( 60.0)	7 ( 46.7)	0
35歳～	40 ( 15.4)	23 ( 18.3)	1 ( 5.9)	13 ( 14.6)	3	18 ( 32.7)	13 ( 41.9)	1 ( 20.0)	3 ( 20.0)	1
40歳～	16 ( 6.2)	6 ( 4.8)	3 ( 17.6)	4 ( 4.5)	3	2 ( 6.6)	0	0	2 ( 13.3)	0

\*\*\* ( $\chi^2$  値  $P < 0.01$  )

表3 結婚年数別×立合い希望別×初経産別

計	初産					経産				
	計 ( )内%	立 合 い 希 望				計 ( )内%	立 合 い 希 望			
		妻	夫	夫婦	不明		妻	夫	夫婦	不明
計	259 (100.0)	126 (100.0)	17 (100.0)	89 (100.0)	27	55 (100.0)	31 (100.0)	5 (100.0)	15 (100.0)	4
～1年未満	49 ( 18.9)	22 ( 17.5)	4 ( 23.5)	23 ( 25.8)	0	0	0	0	0	0
1～	74 ( 28.6)	40 ( 31.7)	9 ( 52.9)	24 ( 27.0)	1	1 ( 1.8)	0	1 ( 20.0)	0	0
2～	32 ( 12.4)	17 ( 13.5)	1 ( 5.9)	14 ( 15.7)	0	1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	0
3～	38 ( 14.7)	25 ( 19.8)	3 ( 17.6)	9 ( 10.1)	1	8 ( 14.5)	6 ( 19.4)	0	2 ( 13.3)	0
4～	16 ( 6.2)	8 ( 6.3)	0	7 ( 7.9)	1	16 ( 29.1)	9 ( 29.0)	1 ( 20.0)	5 ( 33.3)	1
5～	12 ( 4.6)	7 ( 5.6)	0	5 ( 5.6)	0	5 ( 9.1)	3 ( 9.7)	1 ( 20.0)	1 ( 6.7)	0
6～	7 ( 2.7)	5 ( 4.0)	0	2 ( 2.2)	0	4 ( 7.3)	3 ( 9.7)	0	1 ( 6.7)	0
7～	3 ( 1.2)	0	0	3 ( 3.4)	0	5 ( 9.1)	2 ( 6.5)	2 ( 40.0)	1 ( 6.7)	0
8～	1 ( 0.4)	1 ( 0.8)	0	0	0	7 ( 12.7)	6 ( 19.4)	0	1 ( 6.7)	0
10年以上	3 ( 1.2)	1 ( 0.8)	0	2 ( 2.2)	0	5 ( 9.1)	1 ( 3.2)	0	* 4 ( 26.7)	0
不 明	24 ( 9.3)	0	0	0	24	3 ( 5.5)	0	0	0	3

\* ( $\chi^2$  値  $P < 0.05$  )

35歳以上の初産が13名-5%受講しており、Variable Babyとして今回の出産が安産で母子ともに健康であることを、人一倍熱望している夫婦がいることにもアセスメントをする上で留意したい。

結婚年数(表3)からみると、結婚して5年以上の初産の妊婦が26名-10%、8年以上4名。

やっと子宝に恵まれ出産までもう一息というところまでこぎつけた感慨と、また、出産までの数週間をなんとか無事にすごしたいという発言もあり、受講者はアンビバレントな状態であることを留意しなければならない。

受講者は比較的若い年齢層の初産が多いとはいえ、出産に対する思いはそれぞれ異なる夫婦が受講していることを考慮して、クラスを進めることが大切である。

クラスの担当者は、クラス開催前に受講予定の妊婦の医学的・社会的背景など、カルテや外来担当者より必要な情報を収集しアセスメントを行なっている。受講者個人に対するアセスメントだけがとすれば先行しがちになる。だが、クラスの援助過程や講義などの展開の仕方の工夫するには、前述の対象の背景からも、そしてクラス全体の対象の身体・心理・社会的状況のアセスメントをしておくことが必要である。

#### ⑥ 夫立合い分娩申し込みの動機など

##### ⑥-1 立合いの希望者(表2-1, -2)

初産では、〈妻が希望〉-48.6%〈夫婦で〉-34.7%〈夫が〉-6.6%。経産では〈妻が希望〉-56.4%〈夫婦で〉-27.3%〈夫が〉-9.1%。初・経産での違いについては申し込みの動機・理由などから考察する。

4年前の1983年の調査との比較を図1に示す。対象全体では〈夫婦で〉立合分娩を希望している割合がやや増えている傾向がある。

立合いの希望別を妻の年齢・経産回数別に検討した結果、顕著な差異は認められなかった。夫の年齢別では妻が初産の場合、〈夫群〉では29歳以下の割合が他群に比して有意に多い傾向を示す( $P < 0.01$ )。経産では差異は認められなかった。

立合い分娩を試みたいと主体的に出産に関わろうとする〈夫群〉の夫は、他群に比して若い年齢層といえよう。このことは、次の希望別に結婚年数・経産回数別に検討した結果とも関連している。〈夫群〉は全体の例数が少ないが初産の場合、全員4年未満である。

経産の〈妻群〉と〈夫婦で群〉の間で結婚10年以上の割合が、有意に〈夫婦で群〉の方が高い傾向がある。

1983年の調査では、立合い分娩の経験が肯定的だった夫婦では、否定群に比較して立合い希望者が〈夫婦で〉

〈夫〉が多いものが多く、否定群では皆無だった。また、立合い希望者が〈夫婦で〉〈夫〉が多い群では、立合い時の関わり方が積極的であり、立合いを申し込む時の主体性・意識の違いが、立合いのさまざまな経験に対する評価に影響を及ぼしていることが示唆された。

今回の調査の結果は、今後のクラスのアセスメントに反映させる目的があるので先年の結果を考慮し、立合い希望者が夫婦のどちらであったかという立合い希望別に諸項目を比較検討した。

#### ⑥-2 立合い希望の動機・理由(表4-1, 4-2)

##### A 妻側の動機、理由など-初産

動機・理由は自由記載形式としマルチプル回答として集計した。約60項目に該当する回答を得たが、表のようにA~Kまでの11群に分類した。

分類基準は内容別にし、次にその内容にふくまれている6要因を検討し、内容と要因の近似している項目を1分類にくくった。なお今回は、自由回答の内容から検討しているので、解析は実施していない。

内容の中に含まれていると判断できる6要因

- I - 積極的・能動的/消極的・受動的。
- II - 支配的・操作的/自立的・非支配的(自他共存)
- III - 目的追求的・目的指向的/非目的追求的・指向的
- IV - 役割意識重視/価値感重視
- V - 体験・経験重視/心的共有感重視
- VI - 立合希望の理由の主体は、誰に働きかけようとしているか-妻自身のため、夫の為、夫婦のために子どものために)

立合希望別及び経産回数別に理由を11群(A~K)に分けて検討したが、11群間には有意差は認められなかった。なお、ある分類に該当する項目のいづれかに回答しているかによって検討したところ、次のような傾向が示唆された。立合い希望者〈妻群〉では、〈夫が立合うことにより、将来子育ての上で、夫に育児を手伝わせやすい・手伝わせるための動機づけ〉という夫の意識変革への操作的目的を持った妻の理由が、〈夫婦で群〉よりも有意に多い傾向がある( $P < 0.05$ )。また、〈妻群〉は〈夫婦で群〉に比べ、〈親子の自覚を促したい〉〈出産は大変なことであることを気づかせたい〉など夫の意識変革をおこしたいという操作的目的を持った理由がやや多い傾向がある。

また、立合い時に夫と心的共有感を味わいたいというA群の割合は、〈夫婦で群〉の方が〈妻群〉よりやや多い傾向が示された。

##### I 夫の理由、動機-妻が初産の場合

動機・理由を表のように妻と同様にA~Kまでの11群

表4-1 立合いの理由-妻  
(立合いの理由×立合いの希望別×初経産別)

		初産			経産				
		計 ( )内は%	合立合い希望			計 ( )内は%	合立合い希望		
			妻	夫	夫婦		妻	夫	夫婦
A	・心的共有感-夫婦ですばらしい体験を味わいたい	43	22 (17.5)	1 ( 5.9)	21 (23.6)	7	4 (12.9)	0	3 (20.0)
	・夫に良い体験をあげたい	7	2 ( 1.6)	1 ( 5.9)	4 ( 4.5)	6	4 (12.9)	0	2 (13.3)
	・子どもの誕生を二人で見守りたい <心的共有感> <精神・心情重視>	21	12 ( 9.5)	0	9 (10.1)	3	3 ( 9.7)	0	0
B	・夫婦で協力・励ましあいたいので	7	4 ( 3.2)	0	3 ( 3.4)	2	1 ( 3.2)	0	1 ( 6.7)
	・体験を共有したい, 共同作業を経験したい <体験重視>	48	27 (21.4)	0	21 (23.6)	6	5 (16.1)	0	1 ( 6.7)
C	・夫婦感・家族観-何事も二人でやっていく 出産は夫婦のことである 妻だけのことではない 子育ては二人でするもの 出産は共同作業である	30	17 (13.5)	0	13 (14.6)	4	2 ( 6.5)	0	2 (13.3)
	・夫が参加することは自然なこと・あたりまえのこと <価値観重視>	6	3 (2.4)	1 ( 5.9)	2 ( 2.2)	1	0	0	1 ( 6.7)
D	・子育ての第1歩とする	0	0	0	5 ( 5.6)	0	0	0	0
	・家族のスタートとする	2	1 ( 0.8)	1 ( 5.9)	0	0	0	0	0
	・夫婦関係でプラスになるように <家族関係の重視>	5	4 ( 3.2)	0	1 ( 1.1)	3	1 ( 3.2)	0	2 (13.0)
E	・子どものために-祝福してやってほしい 見守ってやってほしい	11	4 ( 3.2)	1 ( 5.9)	6 ( 6.7)	5	4 (12.9)	1 (20.0)	0
	・子どもの将来のために-将来, いい影響がある 将来, 子どもが喜ぶだろう <子ども重視>					4	4 (12.9)		

F	・育児を手伝うように――育児を手伝うように、 子育の上でプラスだから	13	*11 ( 8.7)	0	2 ( 2.2)	4	4 (12.9)	0	2 (13.3)
	・夫としての自覚と理解を促したい ――出産の重大さを感じさせたい 理解させたい 出産は夫婦の問題であることを自覚させたい	15	9 ( 7.1)	2 (11.8)	4 ( 4.5)	4	1 ( 3.2)	1 (20.0)	2 (13.3)
	・父親・親子関係の自覚のために	25	17 (13.5)	2 (11.8)	6 ( 6.7)	1	0	1 (20.0)	0
	・父親・夫としていい体験をさせたい ――いい体験をさせたい 生命の尊さを感じさせたい ＜夫の意識変革重視＞	1	1 ( 0.8)	0	1 ( 1.1)	0	0	0	0
G	・不安だから	85	44 (34.9)	7 (41.2)	34 (38.2)	5	4 (12.9)	0	1 ( 6.7)
	・リラックスしたい――こちよいから・ 精神的におちつくから	14	8 ( 6.3)	1 ( 5.9)	5 ( 5.6)	3	2 ( 6.5)	0	1 ( 6.7)
	・援助してほしいから	7	4 ( 3.2)	1 ( 5.9)	2 ( 2.2)	3	3 ( 9.7)	0	0
	・分娩がスムーズにいくから	2	2 ( 1.6)	0	0	0	0	0	0
	・自然な出産をしたいので	0	0	0	0	0	0	0	0
	・ラマーズ法で出産したいから	0	0	0	0	0	0	0	0
	・前回のお産でつらく不安だった――前回帝王切開 ＜出産快適願望＞	0	0	0	0	7	4 (12.9)	0	3 (20.0)
H	・子どもと自分を見守ってほしい ――二人を喜んでほしい 感動してほしい	3	2 ( 1.6)	0	1 ( 1.1)	1	0	1 (20.0)	0
	・幸せ体験願望――自分にとって ＜幸せ体験享受願望＞	2	0	1 ( 5.9)	1 ( 1.1)	4	2 ( 6.5)	1 (20.0)	1 ( 6.7)
I	・自分の親としての自覚のために ＜親意識の自覚重視＞	2	1 ( 0.8)	0	1 ( 1.1)	0	0	0	0
J	・他人の経験から・勧められて――先生・友人	11	9 ( 7.1)	0	2 ( 2.2)	2	2 ( 6.5)	0	0
	・Dr.から勧められて	0	0	0	0	0	0	0	0
	・夫の希望で	3	1 ( 0.8)	2 (11.8)	0	3	0	2 (40.0)	1 ( 6.7)
	・他人の様子をみてよいと思った ＜非主体的＞	2	1 ( 0.8)	0	1 ( 1.1)	1	1 ( 1.1)	0	0
K	・前回も経験したので今回も ＜良い体験のリピーター＞	0	0	0	0	2	2 ( 6.5)	0	3 (20.0)

\*  $\chi^2$  値  $P < 0.05$

表4-2 立合いの理由-夫

(立合いの理由×立合いの希望別×初経産別)

		初産				経産			
		計 (内%)	立 合 い 希 望			計 (内%)	立 合 い 希 望		
			妻	夫	夫婦		妻	夫	夫婦
A   1	・心的共有感—夫婦で喜びや苦しみを味わいたい	31 (12.0)	11 ( 8.7)	4 (23.5)	15 (16.9)	2 ( 3.6)	2 ( 6.5)	0	0
	・妻のために、よい経験をあげたい くいのないお産にしてあげたい	2 ( 0.8)	2 ( 1.6)	0	0	0	0	0	0
	・妻と子どもを見守りたい	3 ( 1.2)	1 ( 0.8)	0	2 ( 2.2)	0	0	0	0
	・子どもの誕生を二人で見守りたい	2 ( 0.8)	0	0	2 ( 2.2)	0	0	0	0
	・妻のことが心配で ・妻を見守りたい	5 ( 1.9) 2 ( 0.8)	4 ( 3.2) 0	1 ( 5.9) 0	0 2 ( 2.2)	1 ( 1.8) 0	0 0	0 0	1 ( 6.7) 0
		<心的共有感> <精神心情重視>							
A   2	・妻の役に立ちたい	6 ( 2.3)	2 ( 1.6)	1 ( 5.9)	3 ( 3.4)	0	0	0	0
	・サポートを—行動的—リラックスさせてあげたい	3 ( 1.2)	3 ( 2.4)	0	0	0	0	0	0
	・サポートを—精神的—はげます、安心させたい	59 (22.8)	29 (23.0)	6 (35.3)	23 (25.8)	8 (14.5)	5 (16.1)	0	3 (20.0)
	・サポートを—精神的—不安がなくなれば	21 ( 8.1)	14 (11.1)	0	6 ( 6.7)	1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0
	・父として夫として協力したい	2 ( 0.8)	0	1 ( 5.9)	1 ( 1.1)				
		<援助重視>							
B	・体験を共有したい	33 (12.7)	11 ( 8.7)	2 (11.8)	** 20 (22.5)	4 ( 7.3)	0	2 (40.0)	2 (13.3)
	・夫婦で協力・励ましあいたいで (・何事も一緒に体験したい)	3 ( 1.2)	1 ( 0.8)	0	2 ( 2.2)	1 ( 1.8)	0	0	1 ( 6.7)
		<体験重視>							
C	・夫婦観・家族観	17 ( 6.6)	4 ( 3.2)	2 (11.8)	** 11 (12.4)	2 ( 3.6)	0	0	2 (13.3)
	・夫が参加することは自然なこと・あたり前のこと	7 ( 2.7)	1 ( 0.8)	1 ( 5.9)	* 5 ( 5.6)	2 ( 3.6)	0	1 (20.0)	1 ( 6.7)
	・夫、父親としての権利であり義務である	1 ( 0.4)	0	1 ( 5.9)	0	0	0	0	0
		<価値観重視>							

D	・子育ての第一歩とする	3 ( 1.2)	3 ( 1.6)	0	0	0	0	0	0
	・家族のスタートとする	3 ( 1.2)	1 ( 0.8)	0	1 ( 1.1)	0	0	0	0
	・夫婦関係で、プラスになるように ＜家族関係重視＞	1 ( 0.4)	0	0	1 ( 1.1)	0	0	0	0
E	・子どものために一祝福したい	34 (13.1)	11 ( 8.7)	2 (11.8)	** 21 (23.6)	9 (16.4)	6 (19.4)	1 (20.0)	2 (13.3)
	・子どものために一将来子どもにとっていいだろう ＜子ども重視＞	1 ( 0.4)	0	0	1 ( 1.1)	1 ( 1.8)	0	0	1 ( 6.7)
F	・体重・経験願望—人生にとって	12 ( 4.6)	7 ( 5.6)	2 (11.8)	3 ( 3.4)	4 ( 7.3)	2 ( 6.5)	0	1 ( 6.7)
	・感動・体験願望—生命の神秘	12 ( 4.6)	6 ( 4.8)	2 (11.8)	4 ( 4.5)	3 ( 5.5)	2 ( 6.5)	1 (20.0)	0
	・興味・体験願望—自分にとって ＜体験願望＞	4 ( 1.5)	1 ( 0.8)	1 ( 5.9)	2 ( 2.2)	2 ( 3.6)	2 ( 6.5)	0	0
I	・父親・親子関係のために—自覚・役割意識	12 ( 4.6)	8 ( 6.3)	0	4 ( 4.5)	1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0
	・父・夫としての自覚をもつため ＜親意識の自覚重視＞	4 ( 1.5)	4 ( 3.2)	0	0	0	0	0	0
J	・他人の経験から勧められて	9 ( 3.5)	4 ( 3.2)	1 ( 5.9)	4 ( 4.5)	1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0
	・Dr. から勧められて	1 ( 0.4)	1 ( 0.8)	0	0	0	0	0	0
	・妻の希望により	24 ( 9.3)	24 (19.0)	0	0	6 (10.9)	6 (19.4)	0	0
	・立合いには消極的な気持 ・立合いにショックをうけそう ＜非主体的＞	7 ( 2.7)	7 ( 5.6)	0	0	3 ( 5.5)	3 ( 9.7)	0	0
K	・前回経験したので今回も	0	0	0	0	3 ( 5.5)	0	1 (20.0)	3 (13.3)
	＜良い体験のリピーター＞								

\*\*  $\chi^2$  値  $P < 0.03$

\* "  $P < 0.05$

に分類し、立合希望別及び経産回数別に検討した。〈夫婦で群〉では、B-体験重視・C-価値観・E-子ども重視の群をカウントする割合が、〈妻群〉より多い傾向が有意に示された ( $P < 0.03$ )。

〈夫婦で群〉の夫の動機・理由を項目別にみると、〈妻と出産の体験を共有したい〉〈子育ては夫婦でするものである〉〈子どもが生まれてくるのを見守りたい、実感したい〉という項目のカウントが、〈妻群〉より有意に多い。立合希望が〈妻群〉の夫の理由は、〈夫婦で群〉に比べ消極的な傾向である。〈立合うことで妻の不安が和らげられれば〉〈妻の希望だから、かなえてやる〉などのカウントが高い。この群ではラクラス受講申込段階でも〈まだ、立合うことに決めかねている〉という消極的な夫が5.6%いる。

クラス開講第1日目の自己紹介時、夫達から異口同音に言われるのは、まだ立合うことにためらいがあり妻が強くいうので〈牛にひかれて善光寺参り〉ですという状態のようで、出席者の約1/3からこのような気持が聞かれる。

立合いたいという主体性が〈夫婦で〉あるいは〈夫がと〉いう場合、夫には出産・妻・子どもに対する気持などが明確化しており、夫・父親の役割意識や価値観がそれなりにあるように推察される。当然ではあるが〈妻群〉に比べ、意識も行動面も積極的であることが予想される。

経産では妻・夫の理由に顕著な傾向は見だされなかった。

クラスを申し込む妊婦は、立合希望の主体が自分であれ夫婦であれ、立合いをしたい意志のもとに申し込むのであるから (261/314 - 83%)、理由や動機に顕著な差異がみられなくて妥当であろう。

しかし、夫の方は妻から相談されて決めるわけなので、主体性を持って立合い分娩に参加しようとしたいるか否かでは、夫の動機・理由は異なる。

クラス全体のアセスメントをする上では、参加予定の夫達の動機を十分に把握し、クラスに参加したからと言って十分に立合いを受け入れていないことを知っておかねばならない。ある夫達は積極的に知識などがあり、クラスの雰囲気を高揚させるのに役立つ時もある。しかし、まだ立合うことに消極的な夫達にとっては『そんなに積極的に妻をサポートできない。まっ一側にいればよいと思っていたのに』という思いが多くあり、過度な積極性を求めることは重荷になる事もある。

当院では、長年の経験から『夫は妻の側にいるだけで妻の不安を軽減し、とてもよいことだとおもっているの、是非付いていてあげてください』と、消極的な夫の

思いを受容している。その基本的な考え方がスタッフにあるので、クラス受講中に参加意欲が減退してしまったという夫は現在の所は経験していない。

どのような理由で参加するにしても、夫達がクラスに参加しようという気持があることを高く評価して、受容することが大切である。また、参加者達がどのようなステップから始めようが、高次の目標を持ちたくなるように援助していくことである。

例えば、消極的だった夫に、〈妻を励ますことによりとても妻が安心するんだということ、そしてそれが妻のリラックスにつながりお産の進行によいことだということを理解できるよう〉に話しかけていく。多くの夫は、妻がリラックスできるような援助の方法を身につけたいという気持を持つようになる。

クラスに参加している夫達 (男性) の言動から我々が理解していることは、夫達 (男性) は知的な理解を望み、メカニズムなどが解ると目的が明確化されて、各自が可能な目標を設定するということである。消極的態度で臨んだ夫達が第1回のクラスを終了する時には、かなり積極的に立合いに臨もうとする態度がクラス終了時の一言メッセージや評価表に表われている (詳細は後述参照)。

今回の調査では、なるべく必要最小限度の情報収集を目指しアセスメントしたので学歴などは調べていない (☆参照)。だが、長年の調査の結果から、当院の患者の社会的地位などが高いということを前提とすると、受講者の年齢・希望の理由などは十分に吟味し、受講者を尊重し、受講者自らの力で目標を明確にし動機を強化していけるようにすることがポイントである。受講者をディスカウントして奮起させるような態度は好ましいものではない。☆対象者の医学的情報はもとより、社会・精神的領域に関する情報を多量に収集することは、対象者を理解し援助するためには必要である。しかし、対象者のプライバシーに関わることに關しては、いかなる場合でも必要最小限度に押えるべきである。情報を把握する者の限定そして秘密保持の責任などに関する十分な配慮がなされなければならない。特にこのような集団指導の要素を持ったクラスでは、受講者の理解と援助のためという目的の為に集められた情報は、その公開の仕方にも十分な配慮を要する (学歴、職業、結婚、既往歴など)。勿論、受講者自身が自分を理解してもらいたく自分の情報について語ることに於いては原則的にこの限りではない。又、クラス開講中に対象者のプライバシーに関することにふれる時には十分な配慮と、場合によっては対象者の了解をとる必要がある。これは、クラス参加者同志そして参加者とスタッフ (指導者)

との間に信頼関係ができてることが前提となろう。

### ㊦ 出産プラン (表-5)

出産にたいしての考えやどのような出産をしたいかなど、出産に関する要望・願望・計画など広義の意味での出産プランを、クラス申し込み時のアンケートで自由記載形式(マルチプル回答扱い)をとり、アセスメントしている。なお、これは夫婦別々に記載する形態はとっておらず、クラス受講前に夫婦が話し合う機会になるように夫婦単位で記入するようにした。結果をみると、妻だけの考えのように推察されるものが多く、夫の意見が十分に反映されてはいない。しかし、クラスの目標は、受講の過程で夫婦が話しあい、なるべく夫婦で出産プランを考えるようにカリキュラムを組んであるので、受講前の段階で夫の考えが反映されていないにしても問題ではない。一応、妻の出産プランが妻だけの考えであってもアセスメント上参考になるし、また、夫婦で出産プランを考える手がかりとなっている。

#### ㊦-1 初産

全体で第1位の希望は<自然なお産を>-43.2%、第2位<積極的に主体的態度でお産に臨みたい-精神面の強調>-11.6%。

この第2位の項目に<リラックスして臨みたい-精神及び行動面強調><積極的・主体的にお産に臨むために、リラックス法や学習などしたい-精神・行動・知的活動面強調>をしたものを加えると、積極的・主体的にお産に臨もうとしているものが、全体では21.2%(なお、この3項目についてはカウントする際シングル・アンサーとして処理)。

クラス受講前より、積極的にお産に臨もうとしている態度が20%の受講者に明確化されている。この関連項目では立合希望別による差異は認められなかった。

立合希望別及び経産回数別に各項目について検討した結果、当然ではある<夫婦で協力して臨みたい>という項目では、<夫婦で群>の方が<妻群>より有意にその割合が多い。

ラマーズ法による出産と明確に希望しているものは全体で4.2%である、立合い希望別に差異はない。また、立合出産やラマーズ法による分娩を希望するものには、会陰切開をしないでほしい、あるいは促進剤は使用しないでほしいなどという特に医師側に対する要望は、表に見るように数多い要望ではない。

しかし、クラスの開講第1日目の施設側に対する要望として話される内容を見ると、このような<薬を使わず、会陰切開をしないで>という要望は、このアンケートの結果の数字を上まわり約10%強である。

これらの要望も、スタッフ側からの<母子にとっての安全な出産について>という説明により、特に要望を通そうとする人はいない。まずなによりも安全な分娩でありかつ自然で、分娩に関わるものが(家族及びスタッフ)、満足と喜びがえられるような出産経験となるように努力していることを受講者に伝えることにより、形式的な自然分娩に対するこだわりが徐々に少なくなっている。

母子の早期接触を希望しているものは、初産全体で5%、<夫群>-11.8%<夫婦の群>-7.9%<妻群>-3.2%である。有意差はない。

#### ㊦-2 経産

経産では第1位は<自然お産で>-30.9%。積極的・主体的態度-項目1, 2, 3の合計>12.7%である。これは初産に比べ有意差はないがその割合は少ない。<積極的に主体的態度でお産に臨みたい-精神面強調>の項目を立合希望別にみると<夫婦の群>の方が、<妻群に比べ有意にその割合が多い傾向がある(P<0.05)>。

母子の早期接触を希望しているものは、経産全体では5.5%、<夫群>-20.0%<妻群>-6.5%

夫立合い分娩を希望している夫婦の出産プランをみる限り、特別な要望や希望を持っているわけではない。心のゆとりをもって落着いて、なるべくなら自然なお産をしたいという気持ちで出産を迎えようとしていることが推察される。

感動的体験を、夫婦にとってよい体験を、家族にとってよい体験を、喜びのある環境で出産したいなど、出産経験をよい経験にしたいという願いは(それぞれの人生にとってかけがえのない経験を大切にしたいという思いが)、初産では4.6%、経産では12.5%である。

妊婦とその家族のおかれた状況を考慮し、それぞれの家族にとって意味のある出産経験となるように援助していくことが望まれているといえよう。

#### ㊦ クラスで学びたいこと (表-6)

この問いも自由記載にしマルチプル回答内容をカテゴリー化した。

初産の全体では、第1が<リラックスしてお産に望む方法をしりたい>-29.0%、第2が<分娩の経過>-25.5%、第3が<呼吸法を知りたい>-24.7%で次が<出産の心がまえについて>-20.8%。

立合いの希望別にみたところ、<妻群>ではリラックス-呼吸法-分娩の経過の順位。<夫群>ではリラックス-分娩の経過-呼吸法-出産の心がまえの順位。<夫婦で群>ではリラックス-呼吸法-分娩の経過の順である。

<夫群>ではリラックス-41.2%と他群に比べ多いが、

表5 出産プラン×立合い希望別×初経産別

		初 産				経 産					
		計 ( )内%	立 合 い 希 望			不明	計 ( )内%	立 合 い 希 望			不明
			妻	夫	夫婦			妻	夫	夫婦	
		259	126	17	89	27	55	31	5	15	4
A	積極的にのぞむ										
	・積極的に	30 (11.6)	19 (15.1)	1 ( 5.9)	10 (11.2)		5 ( 9.1)	1 ( 3.2)	0	*4 (26.7)	
	・リラックスして	10 ( 3.9)	5 ( 4.0)	0	5 ( 5.6)		0	0	0	0	
	・積極的・主体的・行動的に	15 ( 5.8)	8 ( 6.3)	0	6 ( 6.7)		2 ( 3.6)	2 ( 6.5)	0	0	
	・苦痛のないお産にしたい	7 ( 2.7)	2 ( 1.6)	0	5 ( 5.6)		2 ( 3.6)	2 ( 6.5)	0	0	
	・よいお産のために勉強や準備をする	4 ( 1.5)	1 ( 0.8)	0	3 ( 3.4)		1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	
B	夫婦で協力して	8 ( 3.1)	2 ( 1.6)	0	6 ( 6.7)		*1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	
C	自然なお産で	112 (43.2)	60 (47.6)	6 (35.3)	45 (50.6)		17 (30.9)	11 (35.5)	2 (40.0)	4 (26.7)	
	ラマーズ法で	11 ( 4.2)	7 ( 5.6)	1 ( 5.9)	3 ( 3.4)		1 ( 1.8)	0	0	1 ( 6.7)	
D	処置へ要望										
	・薬剤拒否	11 (42.1)	8 ( 6.3)	0	3 ( 3.4)		1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	
	・会陰切開拒否	20 ( 7.7)	11 ( 8.7)	1 ( 5.9)	8 ( 9.0)		3 ( 5.5)	2 ( 6.5)	1 (20.0)	0	
	・臍帯を切断したい	3 ( 1.2)	1 ( 0.8)	0	2 ( 2.2)		1 ( 1.8)	0	0 0	1 ( 6.7)	
	・その他	3 ( 1.2)	2 ( 1.6)	0	1 ( 1.1)		2 ( 3.6)	1 ( 3.2)	1 (20.0)	0	
E	早期接触の要望										
	・母子の接触	13 ( 5.0)	4 ( 3.2)	2 (11.8)	7 ( 7.9)		3 ( 5.5)	2 ( 6.5)	1 (20.0)	0	
	・父子の接触	1 ( 0.4)	1 ( 0.8)	0	0		1 ( 1.8)	1 ( 3.2)			
F	安全なお産にしてほしい	19 ( 7.3)	11 ( 8.7)	0	8 ( 9.0)		4 ( 7.3)	1 ( 3.2)	0	3 (20.0)	
	苦痛のないお産にしてほしい	8 ( 3.1)	4 ( 3.2)	1 ( 5.9)	3 ( 3.4)		3 ( 5.5)	2 ( 6.5)	0	1 ( 6.7)	
	予定日にうまれてほしい	2 ( 0.8)	1 ( 0.8)	1 ( 5.9)	0		0	0	0	0	
G	感動的で満足できる出産を	2	1 ( 0.8)	0	1 ( 1.1)		2 ( 3.6)	2 ( 6.5)	0	0	
	夫婦にとってよいお産を	2	2 ( 1.6)	0	0		4 ( 7.3)	3 ( 9.7)	0	1 ( 6.7)	
	家族にとってよい体験となるように	1 ( 0.4)	0	0	1 ( 1.1)		0	0	0	0	
	家族により体験をあげたい	0	0	0	0		1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	
	喜びのある環境で出産したい	7 ( 2.7)	5 ( 4.0)	1 ( 5.9)	1 ( 1.1)		0	0	0	0	

\*  $\chi^2$  値  $P < 0.05$

堀口他：周産期ケアと両親教育に関する研究

表6 クラスで学びたいこと×立合い希望別×初経産別

	初 産					経 産				
	計 ( )内%	立 合 い 希 望			不明	計 ( )内%	立 合 い 希 望			不明
		妻	夫	夫婦			妻	夫	夫婦	
	259	126	17	89	27	55	31	5	15	4
後期の生活の注意	4 ( 1.5)	2 ( 1.6)	1 ( 5.9)	1 ( 1.1)		2 ( 3.6)	0	0	2 (13.3)	
入院の時期・方法	8 ( 3.1)	6 ( 4.8)	1 ( 5.9)	1 ( 1.1)		1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	
リラックス法について	75 (29.0)	37 (29.4)	7 (41.2)	31 (34.8)		12 (21.8)	9 (29.0)	0	3 (20.0)	
不安をとるには	12 ( 4.6)	6 ( 4.8)	1 ( 5.9)	5 ( 5.6)		0	0	0	0	
楽なお産をするのは	13 ( 5.0)	9 ( 7.1)	0	4 ( 4.5)		1 ( 1.8)	1 ( 3.2)	0	0	
呼 吸 法	64 (24.7)	34 (27.0)	3 (17.6)	27 (30.3)		17 (30.9)	9 (29.0)	2 (40.0)	6 (40.0)	
陣痛とは	3 ( 1.2)	2 ( 1.6)	0	1 ( 1.1)		0	0	0	0	
陣痛室での過ごし方	3 ( 1.2)	2 ( 1.6)	0	1 ( 1.1)		0	0	0	0	
分娩の経過	66 (25.5)	34 (27.0)	4 (23.4)	26 (23.6)		4 ( 7.3)	3 ( 9.7)	0	1 ( 6.7)	
出産の心構え	54 (20.8)	29 (23.0)	3 (17.6)	21 (23.6)		7 (12.7)	4 (12.9)	0	3 (20.0)	
(夫婦で関わる出産とは)										
精神面	24 ( 9.3)	11 ( 8.7)	1 ( 5.9)	12 (13.5)		} 6 (10.9)	} 4 (12.9)	} 1 (20.0)	} 1 ( 6.7)	
行動面	20 ( 7.7)	10 ( 7.9)	1 ( 5.9)	9 (10.1)						
夫の役割やサポートの仕方	36 (13.9)	14 (11.1)	3 (17.6)	* 9 (21.3)		8 (14.5)	7 (22.6)	0	1 ( 6.7)	
子育てと親のあり方	33 (12.7)	20 (15.9)	0	13 (14.6)		4 ( 7.3)	4 (12.9)	0	0	
赤ちゃんの知識と生理	26 (10.0)	12 ( 9.5)	1 ( 5.9)	13 (14.6)		1 ( 1.8)	0	0	1 ( 6.7)	
妊産婦の心理	6 ( 2.3)	3 ( 2.4)	0	3 ( 3.4)		3 ( 5.5)	1 ( 3.2)	1 (20.0)	1 ( 6.7)	

\*  $\chi^2$  値  $P < 0.05$

このなかには積極的にリラックスする方法をいろいろやりたいと、呼吸法のみではなく呼吸法をも含めたリラックス法として要望が出されている。よって、呼吸法だけを単独にあげた割合が少ないのであろう。また、分娩の経過などについても学習が少しされているとみえ、この項目も他群に比べ少ない。

〈夫の役割やサポートの仕方〉を学びたいという希望は、全体では13.9%であるが、〈夫婦で群〉- 21.3%、〈夫群〉- 17.6%、〈妻群〉- 11.1%で、〈夫婦で群〉と〈妻群〉の間に有意差がある ( $P < 0.05$ )。

〈夫婦で群〉では〈妻群〉に比べ上記の第1～3の項目でその割合が多い傾向がみられる。夫が主体的にクラスに参加する意志を表わしている群では、〈妻〉主導型の群に比べ、妻自身のクラスで学びたい内容や学習意欲に多少差異がある。

項目の内、〈分娩の経過〉〈出産の心がまえ〉〈夫婦で関わる出産について〉〈夫の役割やサポートの仕方〉について、夫婦の内どちらが望んでいるかを回答より分析した。夫自身が学びたいという〈夫〉が主体的であったものは、〈夫群〉がやや高い傾向を示す。〈妻〉が夫に学んでほしいと期待をしているのはやはり〈妻群〉に多い傾向があり〈夫群〉では皆無である。

クラスで学びたいことの内容には、希望別に大きな差異はないが、学習意欲という点では十分に期が熟せぬままに参加している夫婦もいることを考える必要がある。このような夫婦に、多くの知識や方法などを与えることは消化不良をおこさせ、自信を失わせてしまうこともある。また、具体的にリラックス法などを学びたいと意欲満々で参加する夫婦に対しての配慮も同時に必要である。消極的な夫婦にあわせてクラスを展開していくと、積極的な夫婦には物足りなさを味わせてしまい、クラスへの期待などを減少させてしまう。

第1回目のクラスに対する配慮としては、消極的な夫婦に興味を持ってもらうように、そして、自分達にもそれなりに出来そうだという目標が立てられるように、分娩の経過や入院の時期や、家族の協力の仕方など一般論ですすめていき、各夫婦が一番気がかりなことをスタッフ側で把握しておく。第1回目の内容ですべての気がかりや不安を解消することに目標を置かず、どのようにしたら不安なことや気がかりなことを少なくしていけるか、夫婦で考えていけるように情報を提供しておく。(場合によっては専門的アドバイスをしなければならないこともある。)

積極的な動機を持って参加している夫婦に対しては、すでに学習していることを評価し、例えばリラックスの仕

方や分娩の経過や呼吸法などでは、どのようなところをよく理解しており、また理解が不十分なところはどこかを夫婦で明確化できるようにしていく。それには質問が自由にできるように(特別に質問の時間を持つよりも)、解らない時にいつでも質問ができる自由な雰囲気をつくるようにつとめる。また、〈ここまででわかりにくいことなどないか〉と時々たづねたりするとよい。質問が多くて進行がうまく運ばないときがあるが、質問への答えかたのテクニックがスタッフに問われてくる。

従来、出産をまじかにした妊婦はお産のことが心配であるから、まず分娩の経過など当面のことを話したほうがよいとされてきた。しかし、子育てなどについては〈子育ては夫婦の仕事だから夫に対して役割や意識が育つような内容〉〈子育てのことについて話しあえるきっかけとしたい〉〈親のあり方〉について知りたいという要望が、全体で12.7%あることに注目したい。そして、積極的な夫婦はどのような気持ちで子どもを迎えるのか、どのような親になろうとしているのかなど、子どもを迎えてからの生活などにも関心があるので、講義の内容に入れていくことも必要である。

ともすれば、分娩の経過とか処置のこと、リラックスする方法とか、知識や技術などに偏重しがちな講義内容になりがちである。対象者から求められているのは、さまざまな親のあり方が子どもの成長・発達にどのような影響があるかなどもふまえ、親自身が親のあり方を考えていけるような情報の提供である。意識の啓発をも含んだ内容が求められている。指導者側に、発達心理・臨床心理学の知識や経験が必要となってきている。

④ 現在、心配なことと不安なこと—クラス受講前(表7)

④-1 初産

全体では、

第1位—赤ちゃんは五体満足か—17.8%

第2位—現在の状態が心配(切迫早産のような気がする。お腹ははる。貧血、骨盤位、前置胎盤などの異常について)—8.9%

第3位—いざ入院という時に夫がいてくれるだろうか、連絡がつくであろうか。立合ってもらえるだろうかという不安—8.5%

第4位 分娩に対する漠然とした不安—7.3%

不安の内容を立合い希望別で検討したところ各項目に有意差は認められなかった。だが、不安や心配の内容などに3群間の特徴を示唆するような傾向がみられる。

〈赤ちゃんは五体満足か〉という心配をしている割合の順位は〈夫群〉〈夫婦で群〉〈妻群〉である。

〈夫群〉の第2位は〈入院の徴候やその時期がいつなのか〉第3位は、〈高齢出産〉〈陣痛が不安〉〈育児ができるであろうか〉の順である。

〈夫婦で群〉の第2位は〈入院時、夫がいてくれるか連絡がとれるだろうか〉〈分娩に対する漠然とした不安〉の順。

〈妻群〉では、第2位〈現在の状態が心配〉〈第3位〈入院時、夫がいてくれるか連絡がとれるだろうか〉〈分娩に対する漠然とした不安〉の順である。

〈夫群〉では夫自身が立合いたいと意志があるので、立合えるかとか連絡がつくだろうかという入院になった時の心配は5.9%で非常に少ない。一方〈妻群〉では10.3%である。

この〈入院時、夫がいてくれるか連絡がとれるだろうか〉という心配は、夫の立合に対する主体性によって増減するものといえよう。また、〈夫群〉の心配は現在のことでなく、将来のことを案じていることも特徴である。

〈夫婦で群〉は、〈五体満足か〉という心配の外は他群に比べ心配・不安の割合が少ない。〈入院時、夫がいてくれるか〉〈分娩に対する漠然とした不安〉も各々7.9%、6.7%で、〈妻群〉よりその割合が低い。

〈妻群〉では、〈現在の状態が心配〉が13.5%で他群に比べてこの割合は高い。

〈夫婦で群〉と〈妻群〉とでは類似した傾向とはいえその割合が違う。〈妻群〉では異常ではないかと身体のことについて心配している割合が多い。また、〈体がつらい、これから異常にならないか、なんとなく調子がわるいといった、不定愁訴に類する項目〉でも9.5%で他群と比べ高い。この群がこのような体に関する心配の割合が高い傾向があるということについては、次のように分析する。

夫も主体的に立合い分娩をしようという夫婦の場合は、妻が夫に新しい経験をすすめたり話しあうなどと、積極的に物事に関わるタイプなのでないだろうか。身体の不定愁訴や不調を感じた時、心配・不安のレベルで受とめておくのではなく、定期検診などの際に専門家に積極的に質問し不安や心配を軽減するようにしているのではないだろうか。それに比べ、〈妻群〉の方は、前者のような積極性が低いのではないだろうか。あるいは心配や不安に対する問題解決パターンが異なるのではないだろうか。不安特性に違いがあるのかもしれない。(今回は受講者達の性格の特徴や不安テストは施行していない。また、申込みアンケート受理のとき、受講者の健康状態に大きな差異はない。外出、体操、呼吸法などクラスへの出

席が認められている。) また患者側の努力というか、自分の体の不調などについては納得するまで質問する、あるいは治療やガイダンスを受けるとか、快適にする方法を見つけるなど、自分の体を本質の意味においていたわるという責任感があるかどうかということも、この種の心配・不安の割合の差となって表れてきているとも理解できる。

立合い希望のあり方により、主体性・積極性にある程度の差異があることを留意しておくことである。〈妻群〉の現在の体の状態に対する心配や不安について、このような小集団の場でふれる必要がないとか援助・助言の不必要性を強調しているのではない。このような小集団だから質問ができるかもしれないという受講者の気持には、現状では丁寧に助言・援助していくことが大切である。

〈丁寧〉にという意味には、内容を吟味して援助するべきだということである。受講者の不安や心配の内容はアンケート用紙という特殊性の中で語られているので(プライバシーが守られるであろうという期待を含めて)、グループ全体の中で『あなたのご心配は……』と持ちださないほうがいい場合があるからである。例えば、筋腫とか慢疾患性で他人には知られたくない既往などがある場合などである。一般的に多く出されるマイナートラブルの範囲の心配なら、『……このようなご心配は、皆さんがご心配になることです。』と受とめ、それから説明などを加えるのがよい。受講者は、誰もが心配するか誰にでもおこる症状(マイナー・トラブル)だと理解するだけで、自分だけが特別な状態ではないことを知り、安心する人が多い。

〈現状〉ではという意味は、前述した定期検診あるいは外来の保健指導体制で十分に不安などが軽減されることが望ましいことであっても、それが充分でない場合には、このような出産準備教育の場で丁寧にフォローせざるうえないだろうし、また、どのような時でもこのような内容に援助してゆかねばならないことは若干ありえるであろうという意味である。

出産教育の目的は第一報でも報告したが、定期検診あるいは外来の保健指導体制の弱体な指導の補完の目的で行なわれるものではない。現状の心配ごとの軽減だけに目標などが設定されていたならば、次に述べるような夫婦の要望は把握されなくなるであろう。例えば、このアンケートの結果からも、出産の体験を通して家族のあり方や夫婦のきずなを深めようとしている夫婦、あるいは未来に焦点をあて、赤ちゃんの発達や育児について今の内から知識などを会得しておきたい、子育てについて

夫婦で考えていくきっかけにしていこうという目的を持っている受講者のニーズがある。このことを十分に把握しアセスメントしていなければ出産準備教育とはいえない。

### ◎-2 経産

心配や不安のカウントが少なく、多項目にわたって1～3名ぐらいである。だが、〈第1子に対してどのように関わったらいいのか〉という心配がどの項目より割合が高く10.9%。次が〈五体満足に生まれてくるだろうか〉-9.1%、第3位が〈正常なお産ができるだろうか〉-7.3%である。お産の経験があるだけにまずは安産ができるだろうかということが心配なのであろう。経産では〈夫婦の群〉のほうが〈妻群〉よりも多くの項目で心配の割合が高い傾向がある。先にも述べたが、経験があるだけに、そして夫婦で出産に対する意識が高くよりよいお産を望むので、不安に思うことも多くその割合が〈妻群〉より高い傾向を示すのであろう。初産との違いは、〈第1子に対してどのように関わったらいいのか〉という心配である。また、〈心配がはい〉というのは経産では7.3%、初産では1.2%で有意に経産の方が心配がないものの割合が多い ( $P < 0.01$ )。

### ◎-3 その他

〈既往疾患の心配や、妊娠中の労働が胎児に影響はないか、異常なお産にならないだろうか、出産に耐えられる体力があるだろうか、育児ができるだろうか、母乳がでるだろうか〉など、出産後の生活にわたるまで多くの心配ごとがあげられている。クラスの中では、その心配には、個別的に対応していく必要があることが示唆されている。

病院に対する要望あるいは入院してからの事に関しての要望に含まれていた回答のうち、クラスのアセスメントに参考になる内容について検討する。(表8)

〈人間味のある看護を—自分の考えを尊重してほしい。やさしくしてほしい、不安を感じさせないでほしい、communicationをはかってほしい、精神的なところをケアしてほしいなど〉という要望が、初産では-3.5%、経産では9.1%である。また〈具体的に実践的に指導してほしい—上手にリードしてほしい、適切な時期に適切に具体的に指導してほしい〉という要望は初産-1.5%、経産-7.3%で有意差がある ( $P < 0.05$ )。〈人間味のある看護を〉〈具体的に実践的に指導してほしい〉という項目を併せて初産を比較すると、有意に経産の方が看護に対する要望の割合が多い。

また、看護者及び医者に対する医療に対する要望〈患者中心の医療を、処置をする時には事前になるべく説明してほしいなど〉は、初産-0.8%、経産-7.3% ( $P$

$< 0.01$ )。このような要望は絶対数としては少ないが、看過できない患者側の要望である。

そして経産婦ほどこのような要望を持つ傾向があることを留意したい。数少ない出産の経験を大切にしたいという思いも経産ゆえに強いのではないだろうか。

### (2) 評価表の検討

評価表の視点は、第1に〈必要な知識や情報が得られたか〉という受講者の認知レベルでの自己評価及び指導性への評価である。第2は〈指導者の指導性に関する評価〉、〈体験学習の指導に関する評価〉、第3に〈指導者の態度に関する評価〉である。

なお、経産回数別及び立合い希望別に検討したが顕著な差は認められなかった。

『前回のお産の経過がなかなか思いだせない』ということなどである。また、一回々の妊娠の経過自体が前回の経験とはちがった経過をたどるので、次の分娩が新しい経験として認識されるのであろう。初産と経産は分娩の経過が異なるのでその違いなどを知りたいという要望もある。それゆえに、今回の評価結果においても、初産と顕著な差を示さないのだろうと理解する。

この意味において、経産の場合の分娩経過なども説明をしておくことが大切である。

### ④ 必要な知識や情報が得られたか (表9)

#### — Product evaluation

この認知レベルの評価は、どのカリキュラムでも評価③〈ほぼ得られた〉評価④〈十分に得られた〉という高い評価を夫婦ともに表わしている。

1回目と2回目の同一項目の講義内容に関しては、1回目よりも2回目の評価が上っている。

妻の評価で、1回目より2回目の評価⑤の上昇が有意に高いのは、〈分娩の経過〉〈入院の時期〉〈呼吸法について〉である。

夫の評価で有意に高いのは〈入院の時期〉〈呼吸法について〉である。

妻は既に母親学級や書籍などで、分娩の経過などの知識を得ているので、これらの項目での理解と満足が高いのではないだろうか。夫にとって〈分娩の経過〉に関する話しは、初めての知識であることが多く、直接には自分が経験することではないので理解が十分にできないのであろう。

しかし、〈リラックスの重要性〉と〈夫の役割やサポートの仕方〉の項目では、2回目の評価が夫婦ともに有意に下っている。これは、出産の過程で大切なことがリラックスであり、そのリラックスを妻がどのようにして得られるかは、夫の協力や精神的な支えや援助による

表7 心配や不安なこと×立合い希望別×初経産別

	初産					経産				
	計 ( )内%	立 合 い 希 望			不明	計 ( )内%	立 合 い 希 望			不明
		妻	夫	夫婦			妻	夫	夫婦	
	259	126	17	89	27	55	31	5	15	4
・現在の体の状態が心配	23 ( 8.9)	17 ( 3.5)	1 ( 5.9)	5 ( 5.6)		2 ( 3.6)	1 ( 3.2)	0	1 ( 6.7)	
・何か体の調子がすっきりしない	18 ( 6.9)	12 ( 9.5)	1 ( 5.9)	5 ( 5.6)		3 ( 5.5)	2 ( 6.5)	0	1 ( 6.7)	
・高齢出産	11 ( 4.2)	5 ( 4.0)	2 (11.8)	4 ( 4.5)		1 ( 1.8)	0	0	1 ( 6.7)	
・入院時、夫と連絡がつくか	22 ( 8.5)	13 (10.3)	1 ( 5.9)	7 ( 7.9)		2 ( 3.6)	0	0	2 (13.3)	
・陣痛に対する不安	15 ( 5.8)	10 ( 7.9)	2 (11.8)	3 ( 3.4)		0	0	0	0	
・分娩に対する不安	19 ( 7.3)	13 (10.3)	0	6 ( 6.7)		2 ( 3.6)	1 ( 3.2)	0	0	
・五体満足にうまれるか	46 (17.8)	20 (15.9)	51 (29.4)	21 (23.6)		5 ( 9.1)	2 ( 6.5)	0	3 (20.0)	
・無事に安産になるか	12 ( 4.6)	4 ( 3.2)	1 ( 5.9)	7 ( 7.9)		4 ( 7.3)	3 ( 9.7)	0	1 ( 6.7)	
・不安がない	3 ( 1.2)	2 ( 1.6)	0	1 ( 1.1)		0	0	0	0	

表8 病院側への要望—看護にのぞむこと×初経産別

## a. 看護—精神面

	初産	経産	計
人間味のある看護を 患者中心の看護を	12	9	21
特に意見なし	247	46	293
計	259	55	314

 $\chi^2$  値  $P < 0.01$ 

## b. 看護—実践面

	初産	経産	計
看護—具体的・ 実践的指導を	4	4	8
特に意見なし	255	51	306
計	259	55	314

 $\chi^2$  値  $P < 0.05$

表9 受講者からのフィードバック—評価法(1)  
(必要な知識や情報が得られたか)

注1—開催は1クール2回なので 第1日目→I 第2日目→II  
注2—五段階評価 ① 既知だったのでつまらなかった ② 全然得られなかった  
③ 少し得られた ④ ほぼ得られた ⑤ 十分に得られた

	講義内容	開催日 注1	妻						( )内は%		夫						( )内は%	
			注2 ①	②	③	④	⑤	欠損 データ	合計	注2 ①	②	③	④	⑤	欠損 データ	合計		
1	分娩の経過	I	6 (1.9)	0	9 (2.9)	148 (47.7)	127 (40.4)	24	314 (100.0)	4 (1.3)	1 (0.3)	22 (7.0)	142 (45.2)	125 (39.8)	20	314 (100.0)		
		II	2 (0.6)	0	7 (2.2)	99 (31.5)	180 (57.3)	26	314 (100.0)	1 (0.3)	0	8 (2.5)	136 (43.3)	138 (43.9)	31	314 (100.0)		
2	入院の時期	I	2 (0.6)	2 (0.6)	18 (5.7)	137 (43.6)	131 (41.7)	24	314 (100.0)	2 (0.6)	4 (1.3)	35 (11.1)	141 (44.9)	112 (35.7)	20	314 (100.0)		
		II	5 (1.6)	0	10 (3.2)	100 (31.8)	173 (55.1)	26	314 (100.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	7 (2.2)	125 (39.8)	146 (46.5)	34	314 (100.0)		
3	リラクスの重要性	I	1 (0.3)	1 (0.3)	5 (1.6)	56 (17.8)	228 (72.6)	23	314 (100.0)	2 (0.6)	1 (0.3)	6 (1.9)	63 (20.1)	221 (70.4)	21	314 (100.0)		
		II	1 (0.3)	0	11 (3.5)	103 (32.8)	177 (56.4)	22	314 (100.0)	1 (0.3)	0	5 (1.6)	102 (32.5)	177 (56.4)	29	314 (100.0)		
4	呼吸法について	I	2 (0.6)	0	27 (8.6)	143 (45.5)	119 (37.9)	23	314 (100.0)	2 (0.6)	0	35 (11.1)	143 (45.5)	112 (35.7)	22	314 (100.0)		
		II	0	0	6 (1.9)	119 (37.9)	166 (52.9)	23	314 (100.0)	0	0	11 (3.5)	129 (41.1)	145 (46.2)	29	314 (100.0)		
5	立合い分娩の意義	I	1 (0.3)	0	3 (1.0)	78 (24.8)	209 (66.0)	23	314 (100.0)	3 (1.0)	1 (0.3)	25 (8.0)	101 (32.2)	162 (51.6)	22	314 (100.0)		
6	当院の考え方	I	1 (0.3)	0	7 (2.2)	119 (37.9)	163 (51.9)	24	314 (100.0)	1 (0.3)	2 (0.6)	20 (6.4)	111 (35.4)	156 (49.7)	24	314 (100.0)		
7	夫の役割とサポート	I	1 (0.3)	0	9 (2.9)	100 (31.8)	181 (57.6)	23	314 (100.0)	1 (0.3)	0	30 (9.6)	129 (41.1)	131 (41.7)	23	314 (100.0)		
		II	0	0	14 (4.5)	137 (43.6)	139 (44.3)	24	314 (100.0)	1 (0.3)	0	15 (4.8)	139 (44.3)	129 (41.1)	30	24 (100.0)		
8	産婦の気持の変化	II	1 (0.3)	1 (0.3)	36 (11.5)	137 (43.6)	114 (36.3)	25	314 (100.0)	0	1 (0.3)	44 (14.0)	139 (44.3)	98 (31.2)	32	314 (100.0)		
9	産後の妻の気持	II	1 (0.3)	3 (1.0)	55 (17.5)	141 (44.9)	91 (29.0)	23	314 (100.0)	0	2 (0.6)	60 (19.1)	142 (45.2)	78 (24.8)	32	314 (100.0)		
10	赤ちゃんの生理と育児	II	1 (0.3)	4 (1.3)	73 (23.2)	136 (43.3)	78 (24.8)	22	314 (100.0)	1 (0.3)	22 (0.6)	89 (28.3)	116 (36.3)	76 (24.2)	30	314 (100.0)		

\*\*\*  $\chi^2$ 値  $P < 0.01$

ということ、学習を重ねることによって認識される。夫婦の目標水準が上り、この時期では満足感が十分に得られないのだろう。この項目に関しては、次に述べる体験学習に関する評価とあわせて考察する。

〈妊産婦の心理〉や〈赤ちゃんの生理や育児〉に関する評価は、他のカリキュラムに比較して低い傾向がある。これらの結果は、第一報の報告と同傾向を示しているの、考察などは第一報を参照されたい。

#### ⑤ 援助者（スタッフ）への評価（表10-1）

##### — Process evaluation

指導者に対する評価を、受講者の〈認知〉〈情動・精神〉〈身体・運動〉レベルでの受とめ方より検討。

#### ⑤-1 指導性（No 1～6）

##### A 妻からの評価

第1回目は、評価④〈非常に良かったという〉が64%～83%の範囲で得られている。第2回目では評価④は67～86%の範囲である。

第1回から第2回目にかけて有意に評価④の割合が増加した項目は、

##### No 1 〈説明の仕方-理解〉-理解のしやすさ

##### No 3 〈アドバイスの仕方〉

- 全体に対して適切に援助している
- 全体が自由に質問できるような雰囲気がある
- 個人の質問などを心よく受けいれてくれた
- 自分の理解が不十分な時、適切な援助があった

##### No 4 〈練習中のアドバイス〉

- 自分に適切なアドバイスをしてくれた

##### No 6 出産プランのアドバイスがあった

1回目及び2回目とも、評価③の割合が高いのは〈関心や興味をそそる熱意が感じられる〉である。

第1回目の評価④の割合が低いのは、〈自分の理解が不十分な時に適切な援助が得られない〉で、第2回目では〈ふりかえりの仕方が十分ではない〉という項目である。

第1日、第2日ともに評価④の割合があまり変動しないのは、〈表現の仕方〉である。これは短期間の訓練では熟達しないので、担当スタッフの課題である。

受講者個人の理解の状態を把握し、受講者の理解を助け、全体の流れの中にその受講者を遅れなく包含していくかということが、このような小集団指導上では大切である。

また、第2回の項目にある〈質問の時間の十分さ〉〈ふりかえりの仕方は十分であったか〉ということでは、評価④の割合が他項目に比べ低く、各々73.2%、66.6%である。

質問は、集団指導で十分に受容できなかった問題の解決の場である。受講者が講義内容などに十分に理解できなかったことや、よく理解できた内容を確認するためのふりかえりである。学習などの再確認の場でもあるふりかえりが十分ではなかったということは、クラスの目標などアセスメントを再考する必要がある。

何故ならば、このクラスの目的・目標には、知識・技術を習得させることにあるのではなく、夫婦で考え・学び・選択して・行動する過程を重視し、夫婦で出産をどのように迎えるかの考えるきっかけとなるように、クラスを位置づけている。受講者からこれらの配慮が十分ではないという評価があるということ、十分に受とめねばならないだろう。多くの項目で評価④の割合が高いので、ともすればクラスのアセスメント上重要なメッセージを見落としがちになるものである。

なお、出産プランのアドバイスをカリキュラム上でとりあげるのは第2回目である。第1回目では出産プランを各夫婦で考えていくうえで、このクラスを活用してほしいという範囲で話しているので、出産プランに関してはアドバイスを受けたという感じがしないので、高い評価が比較的少ないのであろう。出産プランに関しては、申し込み時のアンケートでも尋ねており、受講者はプランを記載しており夫婦なりに出産プランという言葉の理解は得ているようである。

出産プランとは、各夫婦が自分達の考えのもとに精神的・社会的・身体的環境を考慮にいれて、自分達の出産のあり方の目標を設定し、その目標が得られるように、かつ生まれてくる子どもとその子どもを迎える家族のために、各夫婦がその内容に応じて計画する内容であると広義に考えている。

クラスのカリキュラムの目標などをアセスメントする段階において、上記のような考えを基にして、担当するスタッフの各自の考えをも加味し、スタッフの考える〈出産プラン〉を各クラスを展開しているのではないかと提案された。何故ならば出産準備教育をどのように考えるかという基本的な考えには、担当者の人生観・教育観・看護観などが反映されるべきものであるから、当然、この出産プランのカリキュラムには各担当者の独自性・個性が反映されてよい。しかし、統一した理解がなければカリキュラムとして展開ができないという意見もあった。討議の時間切れとなり、上記の了解のもとにクラスは実

施されたいきさつがあるので、出産プランの理解が受講者に十分に伝わっていないこともある。

なお、この出産プランのカリキュラムの吟味は次年度の課題となっている。

#### イ 夫からの評価

第1回目は、評価④<非常に良かったという>を81%~65%の範囲で得ている。第2回目では評価④は85%~58%の範囲である。妻の評価より低い傾向がある。第1回から第2回目にかけて有意に評価④の割合が増加した項目は、

#### No 3 <アドバイスの仕方>

- 全体に対して適切に援助している
- 全体が自由に質問できるような雰囲気がある
- 個人の質問などを心よく受けいれてくれた
- 自分の理解が不十分な時、適切な援助があった

1回目及び2回目とも、評価④の割合が高いのは、<関心や興味をそそる熱意が感じられる>である。第1回目の評価④の割合が低いのは、<自分の理解が不十分な時に適切な援助が得られたか>で、第2回目<ふりかえりの仕方が十分ではない>という項目である。妻群と同傾向を示している。

#### ⑥-2 体験学習の指導性

これらは、呼吸法やリラクスの仕方の練習に対する受講者自身の体得した感じについての自己評価より、指導についてのアセスメントをする目的である。

妻・夫とも評価の傾向は同傾向を示しており、第1回より第2回の方が有意に評価④の上昇している項目は、

- 妻では--リラックスしている感じ
- 呼吸の仕方がつかめた
- 練習の時間は十分だった
- 夫では--呼吸の仕方がつかめた
- 練習の時間は十分だった

第2回でも評価④の割合の範囲は、妻で54.8%~68.8%、夫では53.2%~67.8%で他の評価項目に比較して低い傾向にある。

特にリラクスに関しては、指導するスタッフ自身が心身ともにリラクスした状態に導くリラクス法などを体得し、かつ指導法を習得していなければ理論だけでは指導できない。カリキュラム上、練習時間も少ないが指導者の側が種々のリラクスの仕方に熟知していないので、受講者を十分に満足させることができないところがある。リラクスの仕方などの指導法、今後十分に検討さ

れるべき課題である。

#### ⑥-3 指導者の態度

<個人を尊重していたか><親しみやすさがあったか><信頼感がもてたか><威圧的感じがしたか>などの項目である。

妻の第1回目では、評価④割合の範囲は89%~76%、第2回では評価④の割合の範囲は91%~81%。有意の差は認められないがその割合は上昇している。

2回とも評価④の割合が最も高かったのは<親しみやすさ>で91.4%。評価④の割合の上昇の率が高かったのは<個人を尊重していた>(4.8% up)

夫の評価も妻のそれと同傾向を示している。第2回の評価④の割合が最も高かったのは<信頼感がもてた>で-86.9%。夫はクラス受講前に病院のスタッフと関わりあいをもつ機会が非常に少ないので、2回のクラス受講を通じてスタッフや病院を知りレポートの形成ができるので、この項目の評価④の割合が高いのであろう。

評価④の割合の上昇の率が高かったのは<威圧的に感じたか>で感じなかったという項目である(2.5% up)。

これらの項目でも、夫からの評価は妻のそれよりやや低い傾向がある。これは、職業上、指導的立場にいる人やプレゼンテーションの機会があり、説明の仕方などに対しても専門的立場から評価しているのではないだろう。

夫婦から<威圧的な感じがした>というマイナスの評価の割合が他の項目に比べると多い。このことは、スタッフ個人の持つ威圧的あるいは支配的なキャラクターが影響している部分と、職業が形成するキャラクターといわれることが反映しているのかもしれない。これは、ライセンスを持った専門家(ここでは医者、助産婦、保健婦)であるという存在だけで、他者には威圧的・支配的、専制的な感じや、何か従わねばならない感覚を起させる可能性あるということである。また、本人の自覚がないと専門家にも職業上許容されがちな態度(権威・支配性など)が、その自身のキャラクターの一部になっていく可能性がある。特に医療従事者が出産準備教育にたずさわる場合には認識しておく必要があろう。指導の仕方などでは、訓練により指導技術などは十分に熟達する可能性はある。だが、指導者の態度は訓練だけによるものではなく指導者の人格、性格、考え方などがにじみ出てくるものであるから一朝一夕に身につくものではない。

小集団活動におけるメンバーは、<受容されている感じ・共感されている感じ>→<安心感・信頼感>→<開放感>の段階を経て、メンバーはグループへの帰属意識がおこり自己学習欲あるいは自己成長への意欲が出てく

るのである。しかし、指導者が上記のような態度や指導をすると、メンバーは充分にこの過程の経験が得られない場合がある。

### ◎ 総合的な評価指標より (表10-2)

クラスの目的・目標より、受講者の学習到達度や指導者の指導性などに対する総合的な評価の指標としたのが、受講後の〈お産のイメージができてきたか〉、〈不安や心配が軽減したか〉の項目である。

#### ◎-1 お産のイメージができそうか

この項目はくどのようにお産にのぞみ、そして体験したいかなど、おふたりにイメージしていくことができそうですか〉と質問し、4段階の自己評価をするようにした。

妻の場合、第1回・第2回とも評価の割合の多いのは評価③の〈かなりできる〉- 63.7%、64.3%であるが、その割合は有意には増加していない。しかし、第2回では評価②の〈少しできる〉の割合が有意に減少しているため、第2回になってお産のイメージができるようになっていくといえる。

夫の場合も妻と同傾向を示し、第2回では評価②の〈少しできる〉の割合が有意に減少している。

#### ◎-2 不安や心配が軽減したか

この項目は〈おふたりの疑問や不安を少しでも軽減するのに、このクラスはお役にたったでしょうか〉と質問し、4段階評価とした。

妻の場合、第1回・第2回とも評価の割合の多いのは評価③の〈ほぼ軽減した〉- 58.3%、57.6%であるが、有意にはその割合は増加していない。しかし、評価②の割合が有意に少なくなっており、かつ、評価④が有意にふえている。これは第2回になってさらに不安が軽減してきているといえる。

夫の場合も妻と同傾向を示し、第2回では評価②の〈少しできる〉の割合が有意に減少し、評価④が有意にふえている。

#### ◎-3 総合評価

ア 全体としては、〈イメージができる〉や〈不安や心配の減少〉する割合がふえており、受講者にとってクラスに参加したことによる利益はあったと評価できよう。

先にみたように対象者の背景によってこれらの評価に差がないか検討した。

イ 経産回数別に検討したが、初産と経産の間に有意差のある項目は認められなかった。夫婦ともに経産の方が〈イメージができる〉や〈不安や心配の減少〉する割合が高い傾向がうかがわれる。これはやはり経験の差であろう。

ウ 立合いの希望別及び経産回数別に検討した。

〈妻群〉と〈夫婦で群〉の間で有意差のあったのは次の項目である。

#### 〈妻の評価〉

\* お産のイメージができそうか

第1回-評価④の割合で〈妻群〉と〈夫婦で群〉の間で有意差があり、〈夫婦で群〉の方がイメージできる割合が多い。

第2回-評価④の割合では有意差はないが、評価②の少しできるの割合は〈夫婦で群〉の方が有意に少ない。

\* 不安や心配が軽減したか

第2回-評価①②の割合は有意に〈妻群〉の方が多く、軽減していない人の割合が〈妻群〉の方が多く傾向がある。

#### 〈夫の評価〉

\* お産のイメージができそうか

第1回-評価④の割合で〈夫婦で群〉の方が非常にイメージできる割合が多い。また評価②の割合が〈夫婦で群〉の方が有意に少ないので、〈夫婦で群〉の夫の方がイメージができる割合が多いといえよう。

第2回-評価④の割合が有意に〈夫婦で群〉の方がその割合が多い。

\* 不安や心配が軽減したか

第1回-評価①②の割合は有意に〈妻群〉の方が多く、評価④の割合は有意に〈夫婦で群〉の方が多く、不安や心配が軽減した人の割合は夫婦で群の方が多く。

第2回-評価④の割合は有意に〈夫婦で群〉の方が多い。

なお、〈妻群〉〈夫婦で群〉両群で第1回より第2回になって、イメージができる割合もふえ、不安なども軽減している割合がふえている。

#### 〈お産のイメージについて〉

お産のイメージがづくりにくいという結果がでると、視聴覚教材をとりいれる必要があるという意見がだされそのアイデアが採用されやすい。確かに初産の人達にとってお産は未知の経験であり、映像などで分娩の経過や陣痛室や分娩室での過ごし方などを見る経験は、安心感を増加させる働きがあるだろう。いわゆる一般的な分娩の経過を知り・視ることは、自分のお産のイメージを作るうえで参考にはなるであろう。

評価表の結果からは、講義の内容などの条件が同一であっても、〈イメージができそうか〉という割合は、ク

表 10-1 受講者からのフィードバック評価(2)

\* 1-開催は1クール2回なので第1日目→I, 第2日目→II  
 \* 2-四段階評価 ① 全然よくない ② 少しよかった  
 ③ ほぼよかった ④ 非常によかった

開催日	妻						夫						
	*2	①	②	③	④	欠損データ	合計	①	②	③	④	欠損データ	合計
① <指導の仕方> ~認知・情動~													
1. 説明の仕方													
⑦ 明快さ理解のしやすさ	I	0	1 (0.3)	50 (15.9)	240 (76.4)	23+	314 (100.0)	0	3 (1.0)	65 (20.7)	226 (72.0)	20	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	0	31 (9.9)	260 (82.8)	22	314 (100.0)	0	0	39 (12.4)	245 (78.3)	29	314 (100.0)
⑧ 関心や興味を引出す力	I	0	0	29 (9.2)	262 (83.4)	23	314 (100.0)	0	0	40 (12.7)	254 (80.9)	20	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	0	20 (6.4)	270 (86.0)	23	314 (100.0)	0	0	20 (6.4)	266 (84.7)	28	314 (100.0)
2. 表現の仕方—声の響きなど	I	0	3 (1.0)	31 (9.9)	257 (81.8)	23	314 (100.0)	0	5 (1.6)	62 (19.7)	227 (72.3)	20	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	1 (0.3)	30 (9.6)	259 (82.5)	23	314 (100.0)	0	0	45 (14.3)	241 (76.8)	28	314 (100.0)
3. アドバイスの仕方													
⑦ 全体に対して適切に援助していたか	I	0	0	71 (22.6)	220 (70.1)	23	314 (100.0)	0	3 (1.0)	73 (23.2)	215 (68.5)	23	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	1 (0.3)	24 (7.6)	266 (84.7)	22	314 (100.0)	0	1 (0.3)	35 (11.1)	250 (79.6)	28	314 (100.0)
⑧ 全体に自由に質問できるような雰囲気があったか	I	0	4 (1.3)	47 (15.0)	238 (75.8)	25	314 (100.0)	0	12 (3.8)	64 (20.4)	214 (68.2)	24	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	2 (0.6)	21 (6.7)	268 (85.4)	22	314 (100.0)	0	2 (0.6)	38 (12.1)	246 (78.3)	28	314 (100.0)
⑨ 個人の質問や意見を心よく受け取っていたか	I	1 (0.3)	2 (0.6)	48 (15.3)	226 (72.0)	37	314 (100.0)	0	3 (1.0)	55 (17.5)	210 (66.9)	46	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	0	15 (4.8)	272 (86.6)	26	314 (100.0)	0	0	32 (10.2)	249 (79.3)	33	314 (100.0)
⑩ 自分の理解が不十分な時、適切な援助があったか	I	0	4 (1.3)	72 (22.9)	201 (64.0)	37	314 (100.0)	0	5 (1.6)	72 (22.9)	204 (65.0)	33	314 (100.0)
	II	0	1 (0.3)	36 (11.5)	250 (79.6)	27	314 (100.0)	0	2 (0.6)	42 (13.4)	242 (77.1)	28	314 (100.0)
4. 練習中のアドバイス													
⑦ 自分に適切なアドバイスをしてくれたか	I	0	2 (0.6)	61 (19.4)	228 (72.6)	23	314 (100.0)	0	6 (1.9)	64 (20.4)	221 (70.4)	23	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	1 (0.3)	35 (11.1)	255 (81.2)	22	314 (100.0)	0	0	44 (14.0)	240 (76.4)	30	314 (100.0)
5. 参加の促しがあったか													
⑦ 質問の時間は十分だったか	II	1 (0.3)	4 (1.3)	56 (17.8)	230 (73.2)	23	314 (100.0)	3 (1.0)	5 (1.6)	69 (22.0)	209 (66.6)	28	314 (100.0)
⑧ ふりかえりの仕方は十分でしたか	II	0	5 (1.6)	78 (24.8)	209 (66.6)	22	314 (100.0)	1 (0.3)	10 (3.2)	91 (29.0)	183 (58.3)	29	314 (100.0)
6. 出産プランへのアドバイス	I	3 (1.0)	15 (4.8)	86 (27.4)	133 (42.4)	77	314 (100.0)	4 (1.3)	10 (5.1)	83 (26.4)	107 (34.1)	104	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	2 (0.6)	30 (9.6)	250 (79.6)	31	314 (100.0)	0	6 (1.9)	45 (14.3)	227 (72.3)	36	314 (100.0)

堀口他：周産期ケアと両親教育に関する研究

開催 日	妻						夫						
	①	②	③	④	欠損 データ	合計	①	②	③	④	欠損 データ	合計	
② <体験学習の指導と参加者の自己評価> ～認知・身体～													
7. リラックスしている感じ	I	0	32 (10.2)	138 (43.9)	120 (38.2)	24	314 (100.0)	2 (0.6)	14 (4.5)	110 (35.0)	166 (52.9)	22	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	12 (3.8)	103 (32.8)	175 (55.7)	23	314 (100.0)	1 (0.3)	4 (1.3)	89 (28.3)	190 (60.5)	30	314 (100.0)
8. 呼吸の仕方がつかめた	I	0	22 (7.0)	168 (53.5)	99 (31.5)	25	314 (100.0)	0	22 (7.0)	140 (44.6)	128 (40.8)	24	314 (100.0)
	II	0	5 (1.6)	114 (36.3)	172 (54.8)	23	314 (100.0)	0	3 (1.0)	114 (36.3)	167 (53.2)	30	314 (100.0)
9. リラックスしたすごし方は参考になっ たか	I	0	6 (1.9)	78 (24.8)	205 (65.3)	25	314 (100.0)	0	6 (1.9)	84 (26.8)	201 (64.0)	23	314 (100.0)
	II	0	3 (1.0)	73 (23.2)	216 (68.8)	22	314 (100.0)	0	1 (0.3)	71 (22.6)	213 (67.8)	29	314 (100.0)
10. 練習の時間は十分だったか	I	0	21 (6.7)	128 (40.8)	140 (44.6)	25	314 (100.0)	3 (1.0)	25 (8.0)	112 (35.7)	151 (48.1)	23	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	4 (1.3)	72 (22.9)	214 (68.2)	23	314 (100.0)	1 (0.3)	10 (3.2)	72 (22.9)	203 (64.6)	28	314 (100.0)
③ <指導者の態度> ～認知・情動～													
11. 個人を尊重していたか	I	0	1 (0.3)	22 (7.0)	266 (84.7)	25	314 (100.0)	0	2 (0.6)	28 (8.9)	261 (83.1)	23	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	0	10 (3.2)	281 (89.5)	22	314 (100.0)	0	0	21 (6.7)	263 (83.8)	30	314 (100.0)
12. 指導者に親しみやすさを感じたか	I	0	0	11 (3.5)	280 (89.2)	23	314 (100.0)	0	1 (0.3)	15 (4.8)	277 (88.2)	21	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	0	4 (1.3)	287 (91.4)	22	314 (100.0)	0	0	14 (4.5)	271 (86.3)	29	314 (100.0)
13. 信頼感がもてたか	I	0	0	18 (5.7)	273 (86.9)	23	314 (100.0)	0	0	25 (8.0)	268 (85.4)	21	314 (100.0)
	II	1 (0.3)	0	9 (2.9)	281 (89.5)	23	314 (100.0)	0	0	12 (3.8)	273 (86.9)	29	314 (100.0)
14. 否定的・威圧的な態度を感じたか	I	30 (9.6)	0	1 (0.3)	240 (76.4)	43	314 (100.0)	43 (13.7)	2 (0.6)	6 (1.9)	231 (73.6)	32	314 (100.0)
	II	24 (7.6)	1 (0.3)	1 (0.3)	254 (80.9)	34	314 (100.0)	27 (8.6)	1 (0.3)	3 (1.0)	239 (76.1)	44	314 (100.0)

\*\*\*  $\chi^2$  値  $P < 0.01$     \*  $\chi^2$  値  $P < 0.05$

表10-2 総合評価

開催 日	妻						夫						
	①	②	③	④	欠損 データ	合計	①	②	③	④	欠損 データ	合計	
自分達のお産のイメージができたか	I	0	48 (15.3)	200 (63.7)	42 (13.4)	24	314 (100.0)	0	61 (19.4)	182 (58.0)	49 (15.6)	22	314 (100.0)
	II	0	30 (10.8)	202 (64.3)	55 (17.5)	23	314 (100.0)	1 (0.3)	30 (9.6)	191 (60.8)	63 (20.1)	29	314 (100.0)
疑問や不安などが軽減したか	I	3 (1.0)	49 (15.6)	183 (58.3)	50 (15.9)	29	314 (100.0)	2 (0.6)	49 (15.6)	183 (58.3)	56 (17.8)	24	314 (100.0)
	II	4 (1.3)	10 (3.2)	181 (57.6)	96 (30.6)	23	314 (100.0)	2 (0.6)	16 (5.1)	178 (56.7)	87 (27.7)	31	314 (100.0)

\*\*\*  $\chi^2$  値  $P < 0.01$     \*  $\chi^2$  値  $P < 0.05$

ラス参加者の動機によって有意にその差異が認められた。また、イメージを作るために視聴覚教材が一番重要だということは、初産によって有意差がないという結果よりも積極的に採用できない。  
(たとえば、ヒマラヤ登山の映像をみてもヒマラヤ登山はできない。)

一般に用いられているイメージ療法あるいはイメージによる目的達成法では、予め他者によって作成された映像を見せることによりイメージを形成させるという考えは補助的手段として考えられている。イメージは本人が作りだしていくものである。既製の映像がイメージに貢献するのではない。既製の映像は補助的手段でしかすぎない。〈イメージによる目的達成法〉というイメージの扱い方とその考えかたを簡単に述べる。

目標を達成するには――目標が明確なこと、達成意欲があること、成功イメージを持ってのぞむ態度(達成された時の自分の状態を想像すること)、達成するための綿密な計画をすることで、自分の能力をしる、必要な知識の収集、必要な訓練などのアウトラインを第1段階でつくる(想像力で描きだす)。そのイメージに基づき実際に行動して、必要に応じて計画を修正する(柔軟性のある態度)、計画が成功に導くように計画をしていく。そして常に、これらの過程は記録され(体の運動系を使用する)ていることも大切だが、これらの過程をチャート化して映像化して記憶する。特に、達成イメージは絵など芸術的なスタイルにしてインプットし、時々この成功イメージを思いだしながら、準備をすることが効果的であることが報告されている。この過程がイメージ法の主要なアウトラインである。  
お産についてもこのような過程を踏んだイメージづくりが応用できよう。

クラス参加者の動機によってイメージの達成感の差異が有意に認められていることを吟味するならば、この目的達成の為の条件をすでに持っているのが、立合い希望が〈夫婦である群〉ではないだろうか。夫婦で目標がある程度明確なことと達成意欲があることが、評価表の結果にみるようにお産のイメージづくりの達成感の違いに表れているのではないだろうか。

〈お産のイメージがどのくらいできているか〉という項目で確認していることは、まさに出産プランがどのくらい〈イメージ〉としてインプットされているかということである。

スタッフには、夫婦に〈一般的な分娩の経過の他に、各夫婦が経験するであろうお産の経過や入院準備を含め、

退院時ぐらまでの過程がイメージできるよう――出産プラン〉を援助していく必要があるということではないだろうか。

まさに、受講者の出産プランにどのように関わっていくか援助していくかということが出産準備クラスを担当するスタッフの目標である。

〈夫群〉、〈夫婦で群〉では、多項目で同傾向を示しており、これらのメンバーが持っている上記のような長所を上手に支援しながら、〈妻群〉の夫婦に積極的に関わる必要がある。勿論、映像や疑似体験(シュミレーション)なども大切であるが、視覚的あるいは身体的体験のみがイメージづくりの基本でないことを強調したい。

## II 要約

### 1. 対象の把握

#### (1) 対象の特徴と指導

##### ① 対象の属性

④年齢-30才以上の妊婦が40%、30才以上の夫が65%

⑤初産-経産の割合18%

⑥結婚年数-結婚5年初産婦が10%

##### \*指導上の留意-

・年齢階層の高い成人を対象とした出産教育であること、35才以上の初産婦5%受講していることを考慮して、受講者の身体・心理・社会的状況のアセスメントを、個人のレベルでかつクラス全体についておこなう。

・経産婦の経験を初産婦の出産のイメージづくりの情報として活用する。

##### ② 立合い分娩の動機などからみる対象者の特徴

[立合いの希望者]

④立合いの希望主体別に、〈妻群〉〈夫群〉〈夫婦で群〉の3群に分類し各項目を検討。

##### ⑤夫が立合いの希望をしている割合

(夫群と夫婦で群を合計)――初産41%、経産36%  
1983年の我々の調査時より、夫が立合いを希望する割合が増えている傾向がある。

⑥〈夫群〉の夫の年齢層は、他群に比べ有意に年齢層が若い。ゆえに、結婚年数も初産の場合は全員4年未満である。

④経産の〈夫婦で群〉では、〈妻群〉に比べ有産に結婚年数10年以上の割合が多い。

[動機・理由]

## ④妻

## 〈妻群〉

- ・立合いの経験を夫にさせることで、子育てや手伝いなどのことで夫の意識を変えたい理由をあげている割合が、〈夫婦で群〉に比べ有意に多い。

## 〈夫婦で群〉

- ・立合うことで夫と心的共有感を味わいたいという理由をあげた割合が、〈妻群〉に比べ多い傾向がある

## ⑤夫

## 〈妻群〉

- ・立合うことで妻の不安が軽減することができればと理由をあげている。

## 〈夫婦で群〉

- ・体験重視、価値感により、子どもを重視している考えにより立合いを希望する割合が、〈妻群〉より有意に多い。

〈夫婦で群〉や〈夫群〉では、夫・父親の役割の認識があることが〈妻群〉の夫よりも明確に表されている。〈夫群〉の夫の年齢層が若いことが起因しているのか、夫が主体でもこれから述べる項目では、〈夫婦で群〉の夫の反応とは異なる様相を表している。今回は例数も少なく、また意識調査などを実施していないので、受講者の意識の違いが何によるものかは十分に検討するには資料不足である

- ・先年、共同研究者の千賀が調査した夫立合いをする夫の意識調査の結果では、自から立今いを希望する夫は、自分の価値観や考えなどが明確になっており、夫・父親としての意識や行動に積極性が認められている。

- ・対象者の把握のためには、意識調査など定期的を実施しておく必要がある。

## \* 指導上の留意-

- ・夫の立合い動機は様々であり、立合うことに躊躇している夫もいるので、受講者の立合い動機などを把握しておく。
- ・第1回目のクラスでは、特に受講者の把握が重要である。また、受講者とスタッフ、受講者同士の親しみや信頼感などラポート形成をはかるようにする。
- ・受講者から得られた情報は、プライバシーに関わることなので、その公開などには十分に配慮する。

## ③ 出産プラン---受講前

## 〔初産〕

## ④全体では

- ・自然なお産をしたい-43%
- ・積極的な態度でお産にのぞみたい-21%

- ・母子の早期接触をしたい-5%

- ・ラマーズ法で出産した-4%

## ⑥立合い希望別

- ・〈夫婦で群〉では、夫婦で協力して出産したいという希望の割合が多い。

- ・母子の早期接触

〈妻群〉-3% 〈夫群〉-12% 〈夫婦で群〉-8%

## 〔経産〕

## ③全体では

- ・自然なお産をしたい-31%

- ・母子の早期接触をしたい-6%

## ⑥立合い希望別

- ・〈夫婦で群〉では、積極的な態度でのぞみたいという割合が多い。

- ・母子の早期接触

〈妻群〉-7% 〈夫群〉-20% 〈夫婦で群〉-

## \* 指導上の留意

- ・多くの受講者は特別なプランを持っているのでなく、まずは自然で安全な分娩をのぞんでいる。
- ・経産婦は、よい出産体験をしたいという希望の割合が多い。
- ・家族の状況を尊重し、家族にとって意味のある経験となるように援助する。
- ・処置などに対する要望は、説明することにより特に要望に固執しない夫婦が多い。

(夫立合い分娩を認めると、様々な処置を拒否したりするのでやっかいであるという人もいるが、事前の説明などで、両者の良いCommunicationにより大きな問題にはなりにくい。日頃からの患者さんとのCommunicationの仕方による。また、患者さんを尊重した姿勢を持ち、かつ専門家としての責任もてる範囲内で専門家がどのようなポリシーを持つかによる。)

## ④ クラスで学びたいこと

## 〔初産〕

## ④全体では---

- ・リラックスしてお産に望む方法をしりたい-29%

- ・分娩の経過-26%

- ・呼吸法を知りたい-25%

- ・出産の心がまえを知りたい-21%

## ⑥立合い希望別

- ・〈妻群〉-リラックス、呼吸法・分娩の経過

- ・〈夫群〉-リラックス、分娩、呼吸・心がまえ  
リラックス-41%

- ・〈夫婦で群〉-リラックス、呼吸法、分娩の経過

◎内容別では

- ・夫の役割やサポートとの仕方を  
――〈夫婦で群〉では、妻群に比べ有意に多い
- ・リラックスは――〈夫群〉で41%
- \*指導上の留意――
- ・クラスで学びたいことの内容と要望の割合は、立合い希望の夫の関わりあい方により差がある
- ・第1回目のクラスの進行では、立合いに消極的な夫達に、自分でも立合いができそうだという気持ちをおきるように援助する。
- ・夫立合いに積極的な夫婦には、その意欲に共感し動機強化と、課題の明確化の援助をしていく。
- ・クラスを受講しようという人達は、分娩経過などの知識などだけを要望しているのではなく、より積極的に出産にのぞむために、自分達ができる準備をしようとしていることに注意を向ける。
- ・カリキュラムとして求められていることには、リラックスの方法、赤ちゃんの生理・育児のことなどが含まれている。  
出産前に夫婦でこのような内容を学習しておくことは、夫の理解が深まるのでなるべくこのような要望を考慮して準備しておくことがよい。

⑤ 現在、心配なこと

〔初産〕

③全体では――

- ・赤ちゃんは五体満足か――――18%
- ・今、体の状態が心配――――9%
- ・入院の時、夫と連絡がとれるか――9%
- ・分娩に対する不安――――8%

⑥希望別

〈妻群〉

- ・今、体の状態が心配――――14%
- ・その他の不定しゅう訴――――10%

〈夫群〉

- ・入院する時期はいつか――――8%

〈夫婦で群〉

- ・入院の時、夫と連絡がとれるか

〔経産〕

③全体で

- ・第1子に対してどのように関わったらよいか――11%
- ・赤ちゃんは五体満足か――――9%
- ・正常なお産ができるだろうか――7%

⑥希望別

- ・〈夫婦で群〉の方が、心配の割合が高い傾向がある。  
お産の経験があることと、お産に対する意識が高く、

よりよいお産をのぞむゆえに心配が多くなるのであろう。

◎初産との違い

- ・経産では、有意に心配をする内容が少ないものが多い。
- \*指導上の留意――
- ・育児不安や母乳がでるかなど、心配の内容は多様である。
- ・立合い希望の主体の違いによって、考え方やものごとに対処する仕様が異なる。〈夫婦で群〉は積極的な姿勢があるので、対象者の要望の後手々にならないように、要望などの先取りするぐらいの洞察をしておく必要がある。〈夫群〉では、心配の内容などは現在のことよりも将来起きそうなことを具体的に問題にしていることが多い。また、年齢層も若いので、心配や不安なことについては、具体的に簡潔に説明し自分達が何をしたらよいのかすぐに判断できるような情報や助言が必要であろう。〈妻群〉では、現在の身体心配ごとなどがあり、マイナートラブルを含めて共感しながら受容的にきめ細かに対応していくことが求められる。というのは、妻群の立合い希望からも、現在、夫から十分サポートされていないことが推察される（子どもが生まれたら何とかして、家事や育児に協力してもらいたいと、夫の意識変革を願っている）。このように他者に対して操作的に関わるタイプは、表面は柔順だが基本的には支配的なところがあるので、スタッフとしては十分に受容的に対応する。  
立合い希望別に対応の仕方を述べたが、これはあくまでも参考であり、対象者の典型的な例としてあげたままである。

2. 指導について――評価表の結果より

(1) 受講者は、必要な知識や情報がえられたか

①第1日・第2日とも、どのカリキュラムにおいても夫婦ともに評価③〈ほぼ得られた〉評価④〈十分に得られた〉という高い評価をしている。

②第1日・第2日にわたって説明をする同一の講義では（ステップを踏み必要なところは再学習をする）、第2日目の評価が上昇している。

③妻の評価

第2日目の評価⑤が有意に上昇している項目は、  
分娩の経過、入院の時期、呼吸法

④夫の評価

第2日目の評価⑤が有意に上昇している項目は、

入院の時期，呼吸法

- ⑤第2日目の方が有意に評価が下っている項目は、  
リラクスの重要性、夫の役割やサポートの仕方  
これらは、受講者自身の目標水準が上昇して、充実  
感が得られないのであろう。
- ⑥妊産婦の心理や赤ちゃんの生理や育児に関する評価  
も他のカリキュラムに比べ低い傾向にある。
- (2) 援助者への評価
- ① 指導性
- [妻]
- ①多くの項目で第1日・第2日を通じて評価④の割合  
が高い。
- ②評価④の割合が低いのは、第1日では<理解が不充  
分なとき個人的な援助があったか>、第2日ではか  
<ふりかえりの仕方が充分であったか>という項目。
- ③評価④が比較的变化しなかった項目は<表現の仕  
方>である。
- [夫]
- ①評価④の割合は高いが妻のそれに比べ低い傾向があ  
る。
- ②第2日目に評価④の上昇が有意に高いのは<アドバ  
イスの仕方>の項目である。
- ③第2日目には、<説明の仕方><表現の仕方>、  
<練習中のアドバイス>の項目は有意には上昇して  
いない。
- ④等1日～2日を通じて評価④の割合の高いのは、妻  
と同様に<関心や興味を引きだす熱意>の項目であ  
る。
- ⑤評価④の割合が低いのは妻と同様に第1日では、  
\* 指導上の留意—  
・受講者個人の理解が不十分なことを早目に把握して、  
カリキュラムの流れの中で受講者が取残されないよ  
うに援助していく。  
・受講者の学習した結果の自己確認の意味もある質問  
の時間やふりかえりの時間が、受講者自身に充実し  
たものに感じられるように、カリキュラムや方略な  
どを十分に検討することが必要。  
<理解が不十分なとき個人的な援助があったか>、  
第2日では<ふりかえりの仕方が充分であったか>と  
いう項目。  
・出産プランにみるように、担当スタッフはカリキュ  
ラムについて充分アセスメントをもってのぞむ。  
・クラスの進行については、受講者の状況を常に敏感  
に把握しながら、柔軟性を持って対応する指導性が  
大切（講義内容、指導方略など）。

② 体験学習の指導性

- ③妻
- ・第2日の評価④が有意に上昇している項目は、<リ  
ラクス感><呼吸法の仕方><練習時間>
- ④夫
- ・第2日の評価④が有意に上昇している項目は<呼吸  
法の仕方>
- ⑤体験学習の指導性をみた項目は、他の指導性などの  
項目の評価に比べ、評価④の割合は50～60%で低い。  
\* 指導上の留意—  
・スタッフ自身のリラクスの仕方などを練習し指導  
法について充分に習得しておかねばならない。
- ③ 指導者の態度
- ④全体では
- ・スタッフの態度全般に対して評価④の割合の多く。  
良い評価を得る。だが、威圧的に感じたという  
否定的評価の割合が他の項目より多い。  
・第2日の方が有意に評価④の割合が上昇した項目は  
夫婦ともない。
- ⑤妻
- ・第1日、第2日ともに評価④の割合が高いのは、  
<親しみやすさ>である。  
・評価④の上昇率が比較的高かったのは、<個人を尊  
重してくれる態度>の項目。
- ⑥夫
- ・第1日に評価④の割合が高いのは、<親しみやす  
さ>である。  
・第2日に評価④の割合が高いのは、<信頼感がもて  
た>  
・評価④の上昇率が比較的高かったのは、<威圧感を  
感じたか>の項目で感じないという評価である。  
\* 指導上の留意—  
・威圧的に感じたという否定的評価の割合が他の項目  
より多い。  
・専門家は、職業上許容される態度が、第2のキャラ  
クターとなりやすいので自覚が必要。  
・指導者の態度などは、学習者（受講者）の意欲など  
に影響を与える。  
・指導者の態度は、技術などの習得のように変化する  
ものではない。その指導者の人格、性格、考え方な  
どが反映されるものであるから、このような教育の  
指導者としては自己研鑽が必要。
- ④ 総合評価  
{お産のイメージはできそうか}
- ③妻

- ・第1回、第2回とも評価③の割合は64%。しかし、第2回では評価②の割合が有意に減少しているので、イメージができるようになっている。

⑥夫

- ・第2回では評価②の割合が有意に減少している  
〔不安や心配の軽減〕

⑦妻

- ・第1回、第2回とも評価③の割合は58%。第2回では評価③の割合が有意に減少し、評価④の割合が有意に上昇している。

⑧夫

- ・第2回では評価②が有意に減少し、評価④の割合が有意に上昇している。

〔まとめ〕

- ①夫婦ともに〈夫婦で群〉の方が、イメージがよくできる割合が多い。

不安や心配が軽減していない妻の割合は〈妻群〉に多い。また、不安や心配が軽減している夫の割合は〈夫婦で群〉の方が多い。

- ②夫婦ともに〈夫婦で群〉では、お産のイメージがよくでき、かつ心配なども軽減しており、クラスの目標とする内容の達成度が高い受講者として評価できる。

- ③クラス受講者全員についても、出産のイメージがで

きる、心配などが軽減している割合が多いので、クラスの目標はほぼ達成していると評価できる。

### III おわりに

今報告では、第1に夫婦でよく話しあわれた出産プランこそ、お産のイメージをつくりあげ落着いて出産が迎えられる基本だということ。第2に、夫婦の環境に適した出産プランの援助過程そのものが、出産準備クラスのスタッフ（援助者、指導者）の専門性であることを述べた。どのようにその専門性を発揮するのかについてクラスを受講されたご夫婦からのフィードバックより検討した。出産準備教育のスタッフの指導上留意することとして報告した内容は、目新しいものではない。対象を尊重した対象理解という原点を大切にしていけることを強調した。

指導上の留意事項などは、データ分析にそって報告したので、総論は第3報において報告する。

ここにあるご夫婦の出産プランの一部を紹介したい。この出産プランは、準備クラスとは何かという原点をわれわれに教えてくれる〈響き〉のように思われる。

『しずかに落着いてゆったりとした気持で、

そして、祝福をもってこどもの誕生をむかえられるようにしたい――その準備をしたい――、祝福された環境の中にこどもをむかえてあげたい』